

## ■大下駄

昭和28年(1953)8月21日から23日までの三日間、「木工の祭典」が、静岡塗下駄商工業協同組合、静岡特産漆器家具連合会、静岡商工会議所の共催で炎天下のもと盛大に開催されたと、静岡履物史にあります。

この時の圧巻は、宣伝用大塗下駄が静岡市の助成を受けて二か月がかりで作り上げられ、登場したことでした。

大下駄の材料は杉材で、塗装は黒呂色塗仕上げ、大きさは長さ9尺、巾3尺5寸5分、高さ2尺1寸、製作延べ人員、大工30名、塗工150名、重さ一足分約50貫のものでした。

まつりの三日間は、下駄業界の若い人たちが揃いの印半纏(しるしばんてん)で練り出し、街中は見物で黒山の人で埋まりました。読売新聞社のニュースカメラマンを招いて、祭典の状況をフィルムに収め、全国の映画館から宣伝活動をしたようです。引き続き、9月8日から東京三越で開催された静岡物産新作品展示会に、この下駄を出品して、「お化け下駄」と東京人を驚かせたと新聞に取り上げられました。

大塗下駄はその後、大阪の物産展などに出品され、業界発展に尽くしたのち、静岡浅間神社に奉納され、現在は駿府匠宿の東海道歴史体験ホール(別館2階 有料)に保管展示されています。

